

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

この会報が皆様のお手元に届く4月末といふのは、英米ともに3歳クラシック第一弾を目前に控えた時季である。その中から、4月30日にチャーチルダウンズで行われるG1ケンタッキー・オーフィス(d9F)に出走予定のマラサート(牝3、父カーリング)を今月のこのコラムの主役として取り上げたい。

G1フリゼットS(d8F)勝ち馬ドリーミングオヴ・ジ・ユアの3番仔で、祖母もG1プライオレスS(d6F)、G1テストS(d7F)という2つのG1を制したドリーミラッシュという、絵に描いたような良血馬がマラサートだ。3月24日に逝去された、ドバイの王族ハムダン殿下の競馬組織シャドウエルの所有馬だが、同馬を生産したのは母ドリー・ミングオヴ・ジ・ユアを所有しているストーンストリートで、19年のキーンランド・セブテンバーセールに上場されたところを、シャドウエルが105万ドル(当時のレートで約1億1387万円)で購買している。

オーナーブリーダーとして数々の名馬を生産しているシャドウエルだが、同時に1歳市場での活発な購買も継続しており、19年のセブテンバーでも総額で110万ドルを投じて、18年生まれの若駒18頭を仕入れている。

トッド・プレッチャー厩舎に入厩したマラサートは、昨年10月9日にベルモント

パークのメイドン(d7F)でデビュー。単勝オッズ1.85倍の支持に応えて見事に勝利し、デビュー勝ちを飾った。続いて出走したのが、11月6日にアケダクトで行われたLRテンプテッドS(d8F)で、ここをマラサートは7.3/4馬身差で快勝。今季の牝馬クラシックの有力馬として、脚光を浴びる存在となつた。

重賞初挑戦となつたのが、12月5日にアケダクトで行われたG2デモワゼルS(d9F)で、ここでマラサートはオッズ1.45倍という、更に被つた1番人気となつた。抜群の手応えで抜けてきた、勝利確実と思われた馬が勝てなかつたり、4コーナーではや圈外と観念した馬が、直線で豹変したように伸びて勝つこともあるのが、競馬である。デモワゼルSのマラサートが、後者だった。

緒戦と2戦目はFastといふ乾いた馬場だったのに対し、デモワゼルSはSloppyという道悪で、お嬢様のマラサートはこれが気に入らなかつたのだろう。スタートは普通に出て、2番手で1コーナーに突入したのだが、向こう正面に入るときつぱりが悪くなり、早くも鞍上の手が動き出した。だが、これに反応することなく後退し、4コーナーでは6頭立ての5番手まで下がることになった。

これは惨敗か?!、と思ったら、直線に向くとお嬢様は不承不承ながらも真面目に走り始め、グイグイと伸びて最後は3/4馬身抜け出し、無敗の重賞制覇を飾つたのである。

3戦3勝の成績で2歳シーズンを終えたマラサートは当初、3歳緒戦の目標を3月27日のG2ガルフストリームパークオーフィス(d9F)において調整されていた。ところが前述したように、その3日前の3月24日にハムダン殿下が逝去。3月27日にメイドンで行われたドバイワールドC開催には、シャドウエルの所有馬が何頭も出走していた一方、10日間の服喪期間を設けたのが、リック・ニコ尔斯がゼネラル・マネージャーを務めるシャドウエル・アメリカだつた。と言うのも、06年1月にハムダン殿下の長兄であるマクトゥーム・アル・マクトゥーム殿下が亡くなつた際、「私が死んだら10日間は私の馬を出走させないでほしい」と、リック・ニコ尔斯はハムダン殿下から直接伝えられていたのである。

出走予定を急遽変更し、4月3日にキーンランドで行われたG1アッショランドS(d8.5F)に駒を進めたマラサートは、ここも白星で通過。4戦4勝の成績で、G1ケンタッキー・オーフィスに向かうことになつた。

亡き殿下に手向けのクラシック制覇を捧げられるかどうか、ケンタッキー・オーフィスのマラサートに注目したい。